

第20回 BELCA 賞決定

BELCAでは、このたび第20回BELCA賞の表彰式(10件)を以下の通り決定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、表彰式は来る平成23年5月17日(火)16時より、東京都中央区日本橋蛸殻町のロイヤルパークホテルにて開催いたします。

第20回 BELCA賞表彰物件(順不同・受賞者名等は今後変更されることもあります)

ロングライフ部門

物件名	所在地	竣工年 (改修年)	用途 (改修前)	所有者	設計者	施工者	維持管理者
NTT 西日本 兵庫支店 芦屋別館	兵庫県芦屋市 大舞町 5-23	1929 (2005)	レストラン & ウェディング 施設 (電報電話局)	西日本電信電話(株) NTT 西日本アセット・ プランニング (株)ノバレーゼ	㈱NTT ファシティーズ	森田組 (株)NTT ファシティーズ (改修)	(株)NTT ファシティーズ (株)ノバレーゼ
新宿センタービル	東京都新宿区 西新宿 1-25-1	1979	事務所、店舗、 駐車場	東京建物(株) 明治安田生命保険相互会社 新宿センタービル特定目的 会社 日本プライムリアルティ 投資法人	大成建設(株)一級建築士 事務所	大成建設(株)	新宿センタービル管 理(株)
日本プレスセンター ビル	東京都千代田区 内幸町 2-2-1	1976	事務所ビル	(株)日本プレスセンター	(株)日建設計	清水建設(株) (株)竹中工務店 (株)きんでん 新菱冷熱工業(株)	(株)日本プレスセンター
明治学院 礼拝堂	東京都港区 白金台 1-2-37 明治学院構内	1916 (1924、 1931、 1966、 2006 、 2008)	礼拝堂	学校法人明治学院	(株)一粒社ヴォーリス 建築事務所 公益財団法人 文化財建造物保存技 術協会 (改修)	田林虎之助 (株)竹中工務店 (改修)	学校法人明治学院

ベストリフォーム部門

物件名	所在地	竣工年	改修年	用途		所有者	改修設計者	改修施工者
				改修前	改修後			
商船三井ビル (虎ノ門ダイビル)	東京都港区 虎ノ門 2-1-1	1979	2009	事務所	同左	ダイビル(株) (株)商船三井	(株)日建設計 (株)日建スペースデザイン	鹿島建設(株)、 東光電気工事(株) (株)JP ハイテック 新日本空調(株) 三機工業(株)、 東芝エレベータ(株) (株)日立ビルシステム
住友商事竹橋ビル	東京都千代田区 一ツ橋 1-2-2	1970	2009	事務所	同左	住友商事(株)	(株)日建設計	(株)大林組
ティファニー 銀座ビル	東京都中央区 銀座 2-7-17	1987	2008	貸事務所・ 店舗	同左	中央三井信託銀行(株) ティファニー・アンド・ カンパニー・ジャパン・ インク	(株)隈研吾建築都市設計事務所 大成建設(株)一級建築士事務所	大成建設(株)
名古屋大学 豊田講堂	名古屋市千種区 不老町	1960	2008	講堂	同左	国立大学法人名古屋大学	(株)横総合計画事務所	(株)竹中工務店 ダイゲン(株) 須賀工業(株) 高砂熱学工業(株)
西新井大師総持寺 本堂	東京都足立区 西新井 1-15-1	1971	2008	本堂・ お札渡し所・ 寺務室・ 倉庫	本堂・ 玄関ホール・ 倉庫	宗教法人総持寺	清水建設(株)一級建築士事務所	清水建設(株)
YKK 丸屋根展示館	富山県黒部市 吉田 200	1958	2008	工場	史料館	YKK (株)	(株)アブルデザインワーク ショップ (株)オンサイト計画設計事務所 (株)構造設計集団 (SDG) (株)総合設備計画	第一建設(株) 黒部エムテック(株)

BELCA賞の概要

目 的 適切な維持保全を実施したり、優れた改修を実施した既存の建築物のうち、特に優秀なものを選び、その関係者をロングライフ、バストリフォームの2部門により表彰し、良好な建築ストックの形成に寄与することを目的とします。

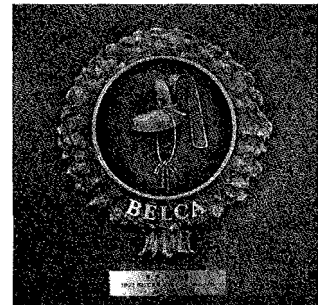
受賞件数 今回を含め、これまでロングライフ部門92件、バストリフォーム部門104件、合計196件がBELCA賞を受賞しました。(次ページの地図参照)

要 件 ロングライフ部門は長年にわたり適切な維持保全が実施され、建築後30年以上経過した建築物のうち特に優秀なもの表彰し、バストリフォーム部門は最近改修され、その改修により画期的な活性化が図られ、改修後1年以上を経過した建築物のうち特に優秀なもの表彰します。

選 考 賞の選考は、学識経験者、建物所有、設計、建設、設備、メンテナンスといった多分野からなる「BELCA賞選考委員会」(委員長：内田 祥哉東京大学名誉教授)により行われました。

表彰式 表彰式は来る平成23年5月17日(火)16時より、東京都中央区日本橋蛸殻町のロイヤルパークホテルで開催される予定です。

受賞者 表彰式では、ロングライフ部門で建物所有者、設計者、施工者、維持管理者の四者、バストリフォーム部門で建物所有者、改修設計者、改修施工者の三者が表彰されます。
なお、受賞物件には賞牌(文化勲章受章者 帖佐美行氏(故人)作)が贈呈されます。

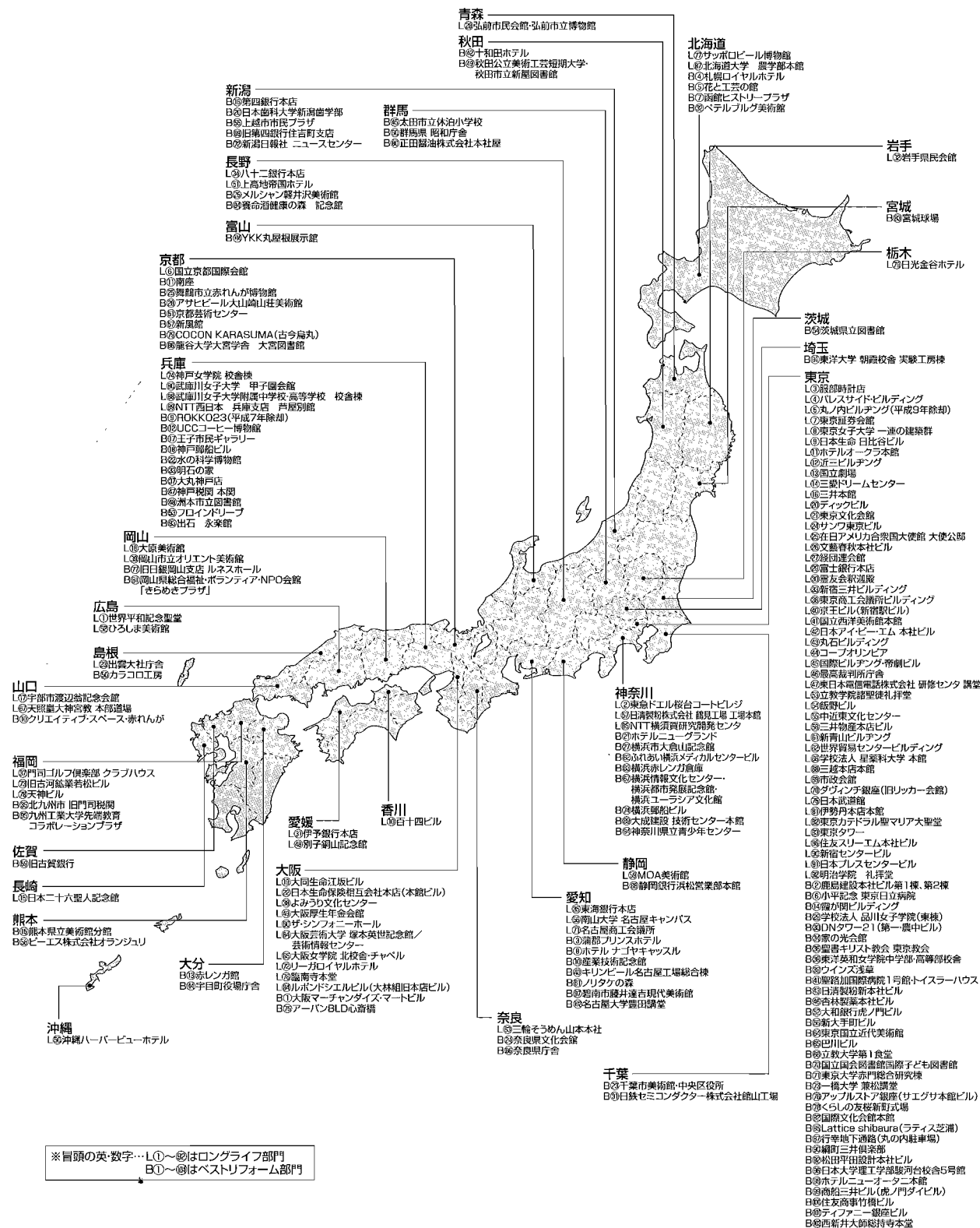


次回募集 次回の募集は平成23年5月下旬より7月初旬まで行う予定です。

第20回(平成22年度)BELCA賞選考委員会(順不同・敬称略)

- | | | |
|------|-------|----------------------------------|
| 委員長 | 内田 祥哉 | (東京大学名誉教授) |
| 副委員長 | 三井所清典 | (㈱アルセッド建築研究所 代表取締役・芝浦工業大学名誉教授) |
| 副委員長 | 鎌田 元康 | (東京大学名誉教授) |
| 委員 | 伊藤 恭介 | (㈱サンケイビル 常務執行役員) |
| 〃 | 上田 博司 | (㈱東急コミュニティー 取締役専務執行役員) |
| 〃 | 唐沢 隆男 | (㈱日立建設設計 常務取締役) |
| 〃 | 木場 一操 | (㈱きんでん 理事 技術本部技師長) |
| 〃 | 杉山 直 | (㈱大林組 取締役専務執行役員 東京本店建築事業部長) |
| 〃 | 牧野 京二 | (新日本空調㈱ 技術本部本部長付) |
| 〃 | 森 暢郎 | (㈱山下設計 取締役会長) |
| 〃 | 割田 正雄 | (清水建設㈱ 常務執行役員 建築事業本部設計・プロポーザル統括) |

BELCA賞分布地図



第20回 BELCA賞選考総評

BELCA賞選考委員会 委員長 内田 祥哉

BELCA賞は、良好な建築ストック、つまり社会の中で生き生きと活用される建築の形成に寄与することを目的に設けられた賞である。賞を二部門に分け、周到な長期計画で、安定した維持保全を継続しているものをロングライフ、活躍にかけりの見えてきた建物を、巧みな改修によって現代社会に蘇生させたものをベストリフォームとし、平成3年から前回まで、計19回、表彰件数は186件を数えている。

ロングライフ部門では、所有者、設計者、施工者、維持管理者の四者を、ベストリフォーム部門では、所有者、改修の設計者、施工者の三者を表彰している。昨今の地球環境問題にともなう建築物の長期利用の気運を背景に、BELCA賞への関心は年々高まりつつあるが、現代社会の中で活躍するためには、ロングライフ部門でも、照明、衛生、空調などの面では抜本的改造工事が必要になっている。他方ベストリフォーム部門でも、建物の歴史的経験を保存する傾向が増しているため、近年は両部門を区別しないで合わせて10件を選考している。その結果、本年はたまたま昨年同様、ロングライフ部門4件、ベストリフォーム部門6件を表彰することになった。

今回表彰されるロングライフ部門は、嘗て電話局として使われていた築80年を超えるウェディング施設、新宿の超高層ビル、報道関係者の中枢施設、大学キャンパス内の90年を超える礼拝堂が選ばれたが、いずれも、新築当時の設計が、将来を見据えた配慮に基づくものであり、またそれが、後の維持管理の中で、有効に生かされていることで、この度の選に残った。

ベストリフォーム部門では、テナントビル風であったものを自社ビル風に改造したものと、新しい都市環境への貢献を目指したオフィスビル、コンクリート打ち放しを創建当時以上の鮮やかさに復元した大学、免震構造への改造を全く目立たせない大型寺院、工場を転用した資料館など、多彩な物件を表彰できることになった。昨年に引き続き、本年も、転用を伴わないものが多く、名実ともに建築寿命を延ばすための維持管理が、社会に定着しつつあることを実感させる。

審査を顧みて、本年の応募案件は、これまでにない優れた物件そろいであったため、選考委員のあいだでは、早くから選考の難しさが予想されていた。残念ながら本年の選考に漏れた作品には、入選案に劣らぬ優秀な維持管理が行われているものもあるので、それらについては再度の応募を期待したい。また、此の分野の技術は、ますます多角的に展開されているので、応募作品の水準も、年ごとに高まることが予想されている。

BELCA賞も回を重ね、周知の範囲が広まってきた。今回新たに、富山県からの応募があったが、建物の維持保全技術の全国的普及向上を目指す賞の趣旨から、未入選の地域からの応募を切に期待したい。

第20回 BELCA賞ロングライフ部門選考講評

BELCA賞選考委員会 副委員長 鎌田 元康

BELCA賞の応募物件数は、ここ数年微増・微減を繰り返しているが、ほぼ一定の値を維持しており、この点からも、BELCA賞が広く認知され、評価されていることを窺い知ることができる。今回、第20回のロングライフ部門表彰物件数は、昨年と同じ下記の4件となった。4件のうち用途変更なされているものは1件であり、その他の3件については、改修は行われているものの、竣工当時の用途のままで使用されている。本年も、昨年と同様激戦となったが、それを勝ち抜いてきた4件だけに、多くの面からロングライフ建築のお手本ともいえるべき表彰物件である。

「NTT西日本 兵庫支店 芦屋別館」(1929年竣工)は、兵庫県芦屋に「通信省郵便局電話事務室」として竣工し、先の大战中、防空目的から外壁全面にコールタールが塗布され、戦後これは除去されたが、替わりにリシンが塗装され、1980年代になって、旧局舎の文化的、史的価値が見直され、耐震改修工事とともにリシン、コールタールの剥離および外装材の復元工事が行われ、また、終戦直後の高度成長期に一部3階部分の増築、その後南側への増築も行われるという時代の大きなうねりを乗り越えて80年使用されてきた建物である。2005年の改修により、1階はレストラン、2階は電話交換機が並ぶ天井が高く広い空間であったのを生かし、天井にグレーベンミラーを張り、シャンデリアを設けてバンケットルームとし、中庭に増築したチャペルと合わせてウェディング施設として利用されている。旧局舎のスクラッチタイル張りという重々しいファサードと増築された全面ガラス張りの軽快なチャペルとの対比、建築の遺構を損なうことなく設置された現代の用途に合わせた照明、空調、防災設備、コストに配慮したメリハリのある改修、さらには、この建物を含めた、NTT西日本の歴史的建造物活用の考え方などが評価された。

「新宿センタービル」(1979年竣工)は、事業目的を異にする3所有者の共同事業として企画された、新宿新都心の中で7番目の超高層建物である。平面的にシンメトリックな構成で、54層の中間部と頂部には13層ごとにベルトトラスとハットトラスを設けた安定的・経済的な架構、13層ごとのベルトトラス階を中間避難階と設定したことなどによる実効性の高い防災対策、外装PCコンクリート板外装ジョイント部での等圧ジョイントの採用、種々の環境・省エネルギー技術の採用などで竣工時話題となった。竣工当初から、30年単位の長期保全計画、10年単位の中期保全計画に分けた計画が立てられ、毎月2回の検討会議で具体的な維持保全内容を決定してきたこと、何よりも、建設後30年目の今回のリニューアルで、長周期地震動対策として変位依存型オイルダンパーを288台設置する大規模な構造体の安全対策を施したことが高く評価された。また、設備機器の管理においても、社会的なニーズの変化に応える努力がなされ、エネルギー使用量削減にも常に前向きに対応するなど、計画目標としていた100年建築を目指した維持保全活動への取り組みがなされている。

「日本プレスセンタービル」(1976年竣工)は、日本記者クラブや日本新聞協会などが入居する日本の報道界の中核施設として建設された。多様な利用に柔軟に対応できるユニバーサルな一般階の空間計画、固定的な利用の空間とフレキシブルなオフィス空間を明快に分離した階層構成、タイル形状をはじめとし、漏水・エフロ防止の工夫がなされた白色タイルの外装、適切な内装材料の選定など、設計での建物の長寿命化の考え方が実を結び、屋根がボルト状という特徴的なデザインの建物が、年月を経た今でも中央官庁街と日本を代表する業務・商業ゾーンが交差するエリアに、日比谷公園を前にして、竣工当時のまま変わらぬ姿で、地域の景観に溶け込んで建っている。主な改修工事としては、DHC熱源受け入れ改修、各階空調機への全面更新、各階のトイレやEVホールなどの共用部改修、昇降機更新があり、外装タイルのシール打替え補修等も計画に基づき実施されている。また、高効率照明器具の採用などの省エネルギーを考慮した改修工事を実施するとともに、運用上も中央監視システムによる24時間監視体制で効率的な省エネルギー活動に取り組み、CO₂排出量の削減に努めている。

「明治学院 礼拝堂」(1916年竣工)は、1863年宣教師ヘボンが横浜に開設したヘボン塾を前身とし、1887年白金キャンパスで開校した明治学院の歴史を刻む文化財建築郡を構成する施設であり、1905年の伊豆大島近海地震、1909年の房総半島東南沖地震で大破した「ミラー記念礼拝堂」を、ウィリアム・メレル・ヴォーリスの設計により、古材を多数転用し、7ヶ月の短工期で再建したものである。関東大震災被災後の補強・増築を中心とした1931年の大改修に続く今回の「保存修理」では、現行法規にも合致する耐震性能を「鋼板補強工法」と外部バトレス更新などで実現するとともに、1931年当時の姿への復元をテーマとしているが、1916年の再建に倣う「古材転用」を前提に、解体材などを活用した各所造作や家具修理などの意匠復元とともに、今回の「保存修理」を保存・修理技能者の実践・育成の場として技術の伝承を指向して実施し、事前調査から始まる事業の全てを極めて詳細な記録として残すなど、今後の恒久的な保存に向けた大きな成果を得ていることが高く評価された。今回の「保存修理」の際に設置された、18世紀の伝統的工法で作成され今後300年は使用可能といわれるパイプオルガンとともに、今後末永く礼拝堂が使いつづけられることを選考員一同が願っている。

第20回 BELCA賞ベストリフォーム部門選考講評

BELCA賞選考委員会 副委員長 三井所 清典

第20回BELCA賞ベストリフォーム部門は今回も応募が多く、改修された建築施設の用途や技術がいよいよ多岐に亘り改修の経験が深まってきた。特に受賞した6点は、それぞれに特徴的個性的色彩の強い改修であった。特徴は貸事務所ビルであるが長期利用のテナントの要望に応えた改修があり、貸商業ビルであるが短期の流行でない佇まいの改修である。またコンクリート打放しのモダニズム建築の表情や瓦葺大屋根の伝統的寺院の構えを保全する改修もそれぞれに創造的技術が用いられている。更に都心のオフィスビルの緑化に努めヒートアイランド化抑制に挑む改修と地方工場の産業的建築の一部再生と大きな森化への総合的な環境改修などである。建築や外構を含む改修が新築に劣らず創造的で総合的行為であることが明らかになってきた。

「商船三井ビル（虎ノ門ダイビル）」（1979年竣工、2009年改修）はこれからの30年商船三井グループのヘッドクォーターとして使い続けられるような設備、機能、デザイン、内装、外装等が今日の先進的な新築ビルに比肩することを狙って利用者と所有者が協力して改修したものである。従って改修前からの利用者は改修計画に際し、自社の本社ビルのような与件を設計に反映させることができ、設計者も丁寧な応答が可能となった。結果として役員室廻りはもとより、エントランスホールのデザイン、その他例えば社内食堂廻りの肌理細かな空間計画、さらに一般の執務室まで、いかにも商船三井の本社ビルらしい個性的なオフィスビルとなっており、優れた改修である。

「住友商事竹橋ビル」（1970年竣工、2009年改修）は築後40年になるが、これまでも20年目の設備更新、30年目の内装を含む大規模改修を実施し、今回の40年目は建物の環境負荷低減、安全性の向上、外構の緑化推進等環境改善に重きを置いた改修で、この継続的な関係者の取り組みが評価される。環境・省エネ対策として熱源設備の一層の高効率機器への更新や、照明器具のLED化等を含むこの度の改修の最も大きな特徴は外構の緑化で、緑被率でいえば、これまでの8.5%が41.3%に拡大されている。皇居に近接するこの敷地の緑化は皇居の緑と連携し、都心部のヒートアイランド化の抑制に寄与することが意図とされている。なおこの豊かな緑には110種もの植物を含み、四季を通して人々の心を癒す効果は大きい。

「ティファニー銀座ビル」（1987年竣工、2008年改修）はアジア全域のフラッグシップ店としての価値を表出し、銀座をより活気づけることをテーマに外装、内装を一新させた改修である。外装は2種のアルミハニカムを挟んだ複層ガラスパネル292枚を宝石のきらめきを表す意図でランダムな角度を付けた工夫など創造的である。内装もティファニーの顧客を迎えるに相応しい恒久性のある接客空間づくりを意図し、同一の建築家によってデザインされている。新たに設けられたエントランスの吹き抜けを囲む光壁はクリスタルストーンを透過するやわらかく美しい光が来客を包み込み、奥に続く床材やドレープカーテンのような木製の壁と共に全体が落ち着いて気品に満ちた雰囲気を出している。

「名古屋大学豊田講堂」（1960年竣工、2008年改修）はコンクリート打放しのモダニズム建築として、すでに歴史的、文化的価値の高い建築となっているが、コンクリートの表面部分を打ち替えるという創造的技術で保存改修した建物である。幸い耐震補強を必要としない診断結果からキャンパスのシンボルとなっている外観は元の姿で保全し、中心となるホールの座席や照明、音響、空調等の性能を高めるなど内部の快適性の向上に努めている。また後方に別棟として建てられていたシンポジウムとアトリウムを設けて一体化したことも併せ、講堂の利用が格段に増えている。建物を使い続けるという大学の明確な意思とそれに応えた技術側の努力が建築の活性化、長寿命化を実現した優れた範例である。

「西新井大師総持寺本堂」（1971年竣工、2008年改修）は戦後不燃建築を推進する中で主流となったRC造の本堂であり、入母屋鉾葺きの壮麗な大屋根の伝統的な外観の建物である。そういう本堂の外観と内観を保存し、大勢の参詣・参拝者の安全を守る耐震性向上のための改修を高床風につくられた1階の柱頭部に免震層を設けるレトロフィット工法を用いて、目的を果たしている。またこの工法によって従来1階に設けられていた不要となった耐震壁を除去し、新しい動線を確保するなど、1階の使い勝手も大幅に向上している。地震時の震幅によって影響を受ける正面階段や裏面の渡り廊下などとの接合部の納まりも洗練されているなど、細やかな設計や施工の努力がうかがえ、優れた改修と評価される。

「YKK丸屋根展示館」（1958年竣工、2008年改修）はYKKの拠点黒部に残る最も古い工場建築の取り壊しに際し、12,000㎡のうち2棟3,000㎡を残して再生された展示館である。構造はRCシェル構造のヴォールト屋根が特徴で、この保存再生には近現代のわが国の産業施設の記念碑的保存としての意味も感じさせるものである。保存に際し、一部除去による軽量化と補強する技術を併用しているが、構造補強を含め、負荷する技術を従前のつくり方と明確に区別する意図が全体に行き亘ったデザインはさわやかである。この企業の技術的発展を展望する展示館は、工場の公開ゾーンにあり、周りを森化する計画が進行中で、まだ日本では珍しい環境配慮型工場の森の中の展示館へと変化していくのも楽しみである。